

やう黙つては  
られない！「温泉問題を考える会」が  
いよいよ活動を開始しました

10月6日に発足

十月六日に「温泉問題を考える会」(世話人代表=竹之内正雄・野辺在住)を発足させた市民有志は、その後世話人会を重ね、討論と調査を行ないました。これらをもとに論議を深め、温泉建設に道理がないことが明らかになつてきました。この事実を広く市民に知つてもらわねばと、活動を開始しました。そんなさなかにも、市は市民負担をふやす新たな提案をしてきています。

**ムダな温泉建設をすすめながら 市がまた国保税値上げ提案**

十月二十日の国民健康保険運営協議会で、田中雅夫

にこそ税金を使うべきだと主張して、国保税の値上げ

は中止すべきだと強く求めています。

た来年四月から値上げしたいと提案しました。

運営協議会の日本共産党の山根議員は、「他市も一般会計の繰り入れをふやし、運営している。国民皆保険制度としての本来の趣旨に立ち返り値上げはすべきではない」と強く主張しました。

すすめている先行き不透明な温泉建設はやめて、住民の命と健康に関わるところ

ムダと思われる温泉建設問題をあくまですすめ、市民へはますます負担を押し付けるこの事態を受けて、「温泉問題を考える会」は活動のヒッチを上げています。

疑問を市民と共に考えよ  
と当面、

① ピラの配布を急ぐ。

② 第三セクター参加予定  
商工会、観光協会、農協  
地元農畜産物組合に、ハ  
開質問状を届け(1月11日)

回答を求める(21日まで)

③ 市議会議員全員に計画  
再検討を求める要望書を  
発送(1月17日)

① ビラの配布を急ぐ。  
② 第三セクター参加予定、  
商工会、観光協会、農協  
地元農畜産物組合に、  
開質問状を届け(1月11日)  
回答を求める(21日まで)  
③ 市議会議員全員に計画書  
再検討を求める要望書を  
発送(11月17日)

がんばれ

にな  
にな  
スの  
かわ  
気に  
とこ  
めて

—日本における二大政党への流れを民主主義の成熟した形などというが、米国人からの体験からいうと民主主義の行き詰まりの形だこの詩人のような米国人もいることに多少の安堵を感じました。◆アーサー・ビナードさんの詩です。「記憶はひんやりとした流れの中に立つて糸を静かに投げ入れ釣り上げては、流れの中へまた放すがいい」

すこ7才。年長組進級を機に卒業した指しやぶり  
最近再燃しました

今まででも、不安やさみしさを手指をなめて表現しましたが、ちょっとちがう感じです。歯の抜けた所が気になる？ ちびのマネ？ だっこしたい？ 赤ちゃんになりたい？ 色々きいてみました。すると、「クラスのTくんもね、ちゅっちゅしてるの」しかもそれがかわいく見えるらしい。じゃあ仕方ないですねえ。が、気にはなるので「音をたててしまぶるのはやめて。ひとこと言いたくなるから」とお願ひ。本心は今スグやめてほしい！！んですけどね。（あづみ）

財界からの資金やマスコミのキャンペーン支援によつて二大政党づくりに拍車がかかつた総選挙は、民主党の惨敗とはいえ、今後、二大政党づくりが後退するとは思えません。◆アメリカ指導型政治を見ていると、米国人の專制的・威圧的な民族性に嫌悪を覚えるのですが、九月中旬、朝日新聞「天声人語」に米国詩人のアーサー・ビナードさんの政治観が紹介され、読まれた方も多いと思います。「日本における二大政党への流れを民主主義の成熟した



## 「あきる野民報」を 地域の新聞に一新！

あきる野民報の新名称を募集し、この間、数多くの案が寄せられました。今年中には関係の方々のご意見を参考にしながら決定し、新年号から装いを新たに登場いたします。

ご協力有難うございました。

う、ご期待

<FAX 558-0718 松平まで>

# あきる野民報

No.428 2005年11月27日/発行  
日本共産党あきる野市委員会

木崎

No.428 2005年11月27日/発行  
日本共産党あきる野市委員会

# 横沢入り「活用策」に市民の声生かして…

「横沢入りを語る会」が参考意見をまとめ、都や市に提言。  
東京都の里山保全地域第  
一号の指定が予想される「横  
沢入り」について、市民の立  
場から、これまでも保全運  
動にたずさわってきた、諸  
市民団体の中の有志又は個  
人が「参考意見」を四年が  
りでまとめて、東京都やあ  
きる野市にこの程送付した。  
内容は、環境団体のムサ  
サビの会が行なったアンケ  
ートなどを紹介しながら、「会  
としての提言を述べる形式  
でまとめられている。

例えば、「保全及び維持管  
理」については、「私たちの  
考え方や要望を都に伝えてい  
くだけでなく、市民ボラン  
ティアが積極的に協力して  
いく」となどと提案。

或いは、都の「保全計画案」  
で「地域内に活動拠点施  
設をつくる」となっている  
のに対し、参考意見では「地  
域外に施設はつくるべきだ  
と述べるなど、今後、「保全  
計画」策定や、保全活動にと  
つて大事な提言が盛り込まれ  
、市民が積極的に「横沢入  
り」保全に関わっていく上  
で大切な指摘がなされています。

報告書の問合せは、岡田  
さん(596-4535)へ。

日 時	主 催	作 業	連絡先
11月27日 (10時~)	西多摩自然 フォーラム	草堂の入り 森林整備	山田 090-4015-9000
12月11日 (10時~)	横沢入り山管 理市民協議会	南側湿地の 畦の復元	久保田 0428-22-3874
12月25日 (10時~)	西多摩自然 フォーラム	湿性環境 復元作業	久保田 0428-22-3874

\*参加は必ず担当者に事前に問い合わせてください。



戦争体験に聞き入る参加者(あきる野9条の会主催・11月19日)

参考資料をいただき通読し  
て目についた今後のボラン  
ティア作業の日程を紹介。



秋の暖かい日射しの中、横沢入りで遊ぶ家族連れ(10月始めに撮影)

## あきる野9条の会・主催 あきる野市民の戦争体験を聞く会

11月19日  
に開く

### 初めて人前で語る 被爆体験に参加者も涙。

が修羅場だった」と惨状を語りました。「当時生まれた姪が産んだ子どもがいま二八才で白血病を患い、あと二年の命」と一世三世に及ぶ影響の恐ろしさを伝え、「人

前で話すのは初めて。憲法

9条を変え、戦争への道を歩もうとする動きに危機感

を覚えて、話を決めた

と静かに語りました。

月十九日、あきる野中央公  
民館で「あきる野市民の戦  
争体験を聞く会」を開きました。  
十才の時、長崎で被爆した原一美さん(油平在住)は「やけどで肉が露出した人、  
変わり果てた子供を抱きしめる母親。歩く先々すべて

敗戦の前後を  
「満州」で過ごした  
体験は…

一九四六年、十七才まで「満  
州」で過した南知子さん(伊  
奈在住)は「ソ連軍が参戦し、  
日本軍や官に近い人達はい  
ち早く本国へ帰り、情報の  
ない多くの日本人が現地に置き去りにされ、家や食糧  
を失い、栄養失調や病気で死んで行った」。

「私も、ソ連兵の目を逃  
るために男の服装をして天  
井裏に隠れることもあつた  
などと戦争によって民間人  
が受けた被害、恐怖を語り、  
憲法を変えれば、徵兵制が  
復活し、戦争が再び起きて  
國民が悲惨な目にあう」と  
の大切さを訴えました。

## 歴史探訪

第8回

### 大悲願寺・横沢(2)



秋の七草の一つで  
もある萩は初秋の頃  
紅紫色の可憐な花を  
咲かせ、仲秋に咲き  
こぼれます。山上憶  
良が万葉集で萩を詠  
んでいるように、秋  
の野の花の代表とも

云えるものです。春や夏の野の花とちがい、可憐で控  
えめでどことなく侘びしいところが日本人の嗜好に  
合っているのかもしれません。

大悲願寺といえば、あきる野市の文化財の多くを  
所蔵している名刹として知られています。私が大悲願寺を訪  
れた九月下旬は、寺の境内一面に白萩がこれから咲  
満ちる直前の様子でした。

この寺の文化財である古文書の一つに「伊達政宗  
白萩文書」があります。推定一六二三年、伊達政宗  
が大悲願寺に宛てた文書ですが、以前この寺に来山  
した折り、見事に咲いていた白萩を気に入り所望し  
た文書です。後年(一九七三)この由來を基に五日市  
町から仙台市へ秋川産の庭石と白萩を、仙台市から  
相互に贈られ、臥龍梅は大悲願寺本堂前に植えられ  
ています。(次号に続く)